

経営比較分析表（平成29年度決算）

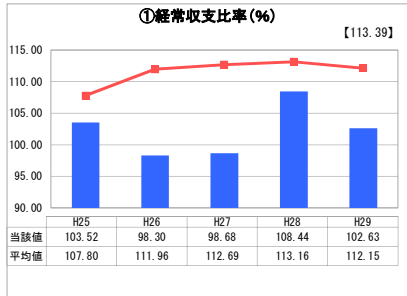
兵庫県 丹波市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	62.46	99.46	4,106	

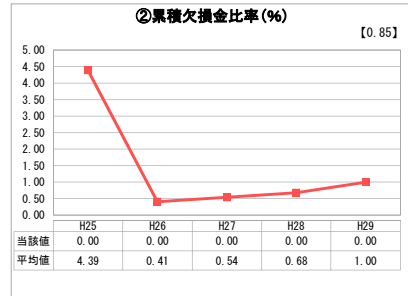
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
65,448	493.21	132.70
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
64,795	297.02	218.15

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

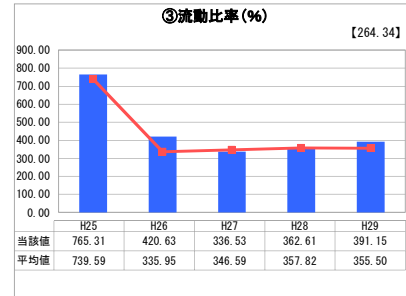
1. 経営の健全性・効率性



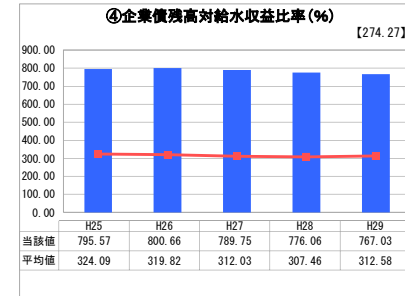
「経常損益」



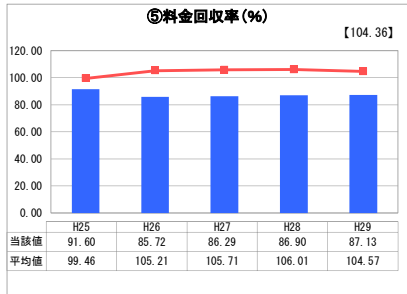
「累積欠損」



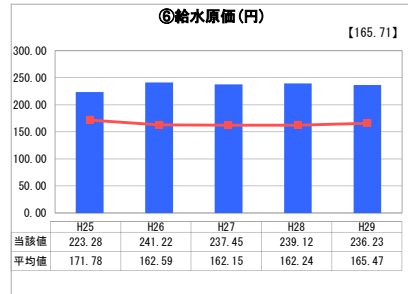
「支払能力」



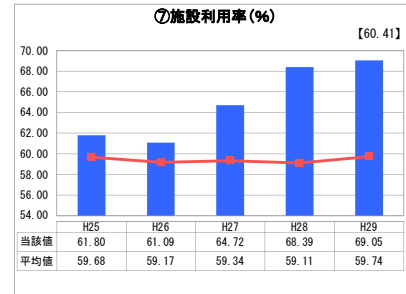
「債務残高」



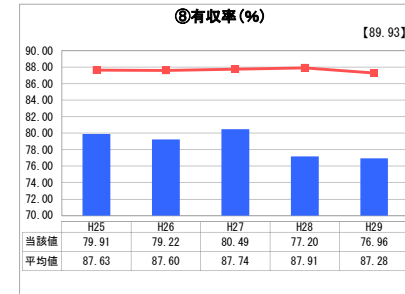
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

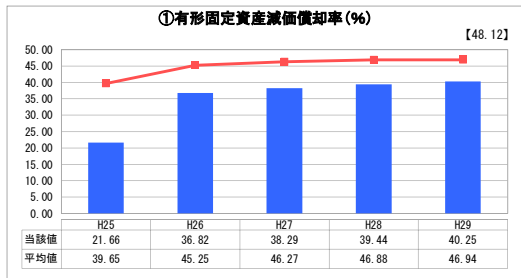


「施設の効率性」

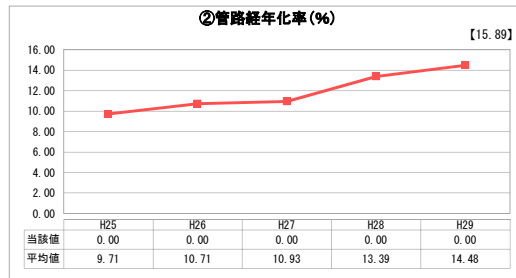


「供給した配水量の効率性」

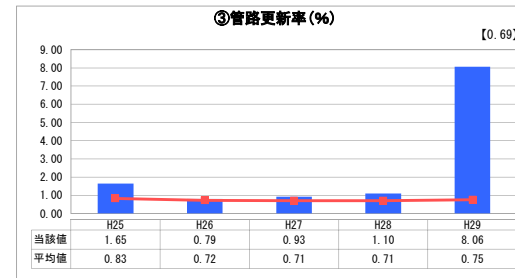
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・経常収支比率や料金回収率も平均値を下回っているとともに、水道施設統合整備事業により企業債残高が平均値を大きく上回っており、厳しい財政状況であるため、投資の効率化や経費削減による経営の改善に取り組む必要がある。
 ・また、有収率については、依然として低いため、「管路更新計画」による更新を計画的に取り組み、有収率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

・水道施設統合整備事業により、若干の管路更新はできているものの、有形固定資産減価償却率が年々増加傾向にあり、老朽化が進行している。
 ・今年度に策定した「水道施設長寿命化計画・管路更新計画」に基づき、計画的に更新を進める必要がある。ただし、管路更新率が突出しているのは、「水道施設長寿命化計画・管路更新計画」において、数値を整理したためである。

全体総括

・給水人口の減少等による料金収入の減少や老朽化施設の更新による経費の増加が見込まれるため、経営状況は厳しさを増している。
 ・将来においては、料金の見直しも検討しなければならぬが、現時点において県下でも高額な料金設定のため、見直しには十分な検討を行う必要がある。
 ・今後、管路更新により有収率が向上すれば、少なからず経費削減が期待できるものの、更なる経費削減に努め、経営改善の取り組みを強化する必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。